

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	桂川・支川対策特別委員会		会議場所 第3委員会室
			担当職員 池永
日 時	平成29年6月28日(水曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 15 分
出席委員	○木曾利廣、菱田光紀、馬場隆、藤本弘、(湊泰孝議長) (欠席:西口委員長、竹田委員)		
出席理事者	【土木建築部】柴田部長、中西施設担当部長 [桂川・道路整備課]関課長、澤田広域事業担当課長、小西広域事業係長		
出席事務局	片岡局長、鈴木議事調査係長、池永主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者1名	議員0名

会 議 の 概 要

13:30

1 開議 (木曾副委員長あいさつ)

<木曾副委員長>

本日、西口委員長から欠席届が出ているため、副委員長である私が進行する。また竹田委員からも欠席届が出ているので、御承知おき願う。

(事務局日程説明)

[土木建築部入室]

2 案件

- ・桂川改修事業の経過及び平成29年度事業計画について

[土木建築部長あいさつ]

[桂川・道路整備課広域事業担当課長より資料に基づき説明]

13:49

[質疑]

<湊議長>

大井町・千代川町地内の桂川の護岸であるが、以前の築堤工事の図面はあるのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

把握していない。以前に工事されたのであれば、図面は残っていると考える。言われているのは防災道路より上流か下流か。

<湊議長>

上流も下流でもある。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

必要であれば京都府に確認させていただく。

<藤本委員>

先ほどの説明で、雑水川は、平成30年には緑橋から上流の土橋が完成するとのことである。しかし、この間の台風の時もそうであるが、渡月橋から下流に至っては170億円の国の予算がついて工事が進められているが、上流の亀岡市に関しては遊水地だという形で、この予算の中には入っていない。雑水川は平成4年から工事が始まり、25年経ってもまだ整備できない。千々川においても、宮前千歳線が10年以上かかっている。予算がつかず工事できないということだと、亀岡のまちづくりが大きく遅れることになる。しっかりと府の予算を獲得されたいと考えるがどうか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

予算の確保は必要だと考える。本市だけで活動するのではなく、桂川改修促進期成同盟と連携し、各支川及び桂川改修について、毎年、京都府や大阪、中央要望として国土交通省や財務省に要望しているところである。今後も引き続き要望活動をしていきたい。

<藤本委員>

今後、当特別委員会も、もっと積極的に要望を投げかけていきたい。

<馬場委員>

スタジアムの関係で、京都府の答弁では、請田口から上流は10年確率の洪水対応でよいと言っている。本日の報告とは全く違う方向だと考えるがどうか。

<土木建築部長>

おそらく京都府議会での答弁だと思うが、今の状況で10年確率の整備ができています。平成21年にできているということで説明されたのではないかと。亀岡市も京都府もそれで満足しているわけではなく、さらに上げていこうということで進めているものである。

<馬場委員>

「京都府域の治水安全度の現状」という京都府が出している文書では、「淀川本川に対して上流の各支川及びさらに上流に位置する京都府管理区間河川のレベルは低く」と記載されており、「河川整備により計画洪水（昭和47年台風20号×1.53倍）及び戦後最大洪水の水位を下げるができるが、嵐山については具体的な河道形状は未検討である」とされているが、河道形状はもう検討されたのか。

<土木建築部長>

その資料がいつのものかわからない。嵐山から下流については国土交通省の管理であり、嵐山地区の改修の方法が、まだ地元を含めた検討委員会で論議されているところである。そういうことから考えれば、未確定かもしれない。

<馬場委員>

30年確率を目標とするのか。25年確率という資料もあるが、府の管理河川ではそういう位置付けはないので、30年で理解してよいのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

30年である。

<馬場委員>

高知県は水害が多いが、一番上が50年確率、その次が30年、10年としている。その河川の形状によってカラーリングし、市民がすぐに分かるような状況を作っている。秋田県でも同じようなものを作っているが、京都府にはこのようなものはあるのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

暫定計画では30分の1である。基本計画は100分の1である。

<馬場委員>

100分の1は實際上、河道を広げていくことになり、そこにはとてもいかないと関係者からは聞いている。当面は30分の1を目指していると理解してよいのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

そうである。戦後最大規模を安全に流下させるのが30分の1である。

<馬場委員>

少なくとも桂川とその支川については、10分の1確率ができているのか30分の1確率ができているのか、市民に広く分かりやすい形で情報提供するよう京都府に要望されたい。

<菱田委員>

過去には保津橋の上下流付近で採石されていたが、今はいろいろな経過の中でなくなっている。府に要望することになると思うが、採石を行うことで、1つの事業が経済的に動くことになる。また採石により、自然に浚渫されるという効果が狙える。昨年、国土交通省の河川局長に会派で会いに行った時、なぜ京都府はしないのかと言われていた。わざわざ税金を入れなくても、経済の中でまわるように京都府に要望されたいと思うがどうか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

言われることはもっともであり、我々も一般質問をされた時に要望している。以前河川を掘削された時に取りすぎた経緯があり、京都府としては全く行われていないという状況であるが、経済的なこともあるので要望していきたい。

<菱田委員>

雑水川の関係で、春日橋・春日小橋の改修に向けて、4件中2件が協力いただいたとの説明であった。あと2件の協力と橋の架け替えとの兼ね合いがあるが、その上流の南郷池の土砂が相当堆積している。下流に大きな影響があるかどうかは別として、南郷池が遊水機能を果たしているのは間違いない。もう20年以上浚渫していないと考えるが、浚渫の計画は。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

上流からの堆積土砂がかなり見受けられた。雑水川から南郷池に入るところにかなり堆積しており、府民公募型の市町村提案型事業で亀岡市から要望し、昨年度末までに累計で約400立方メートル撤去してもらったところである。またそのような状況が見られたら、市として京都府に要望していきたい。

<菱田委員>

もっと取っていただきたい。緑橋から上流について、橋の架け替えも行いながら進めていくということだが、以前にこの部分が逆流し、北町の裏が浸水した。またマツモト荒塚店の地下駐車場も浸水して被害が出た。原因は農業用水路が溢れたからだと言われている。水路自体は農業用水路であるが、水は農地に降った雨ではなくて、宅地に降った雨がほとんどである。そういったことを考えると、やはり雨水の排水計画を早く整備しなければならないのではないか。ここでこれを言うと、これは下水だという話になるが、亀岡市としてどのようにするか考えていただきたい。

<土木建築部長>

これはよく議論される場所である。実際、マツモトの地下や楽々荘の駐車場が水浸しになった時があった。農業用水路の水もあったかもしれないが、ほとんど降雨の水がそのまま流れ込んだということである。完全に雨水排水であり、雑水川が完全に機能していれば、ある程度被害は軽減できたと考える。雑水川が呑み込まない関係で、市の管理である水路が呑み込めず、逆流していろいろなところで溢れたも

のである。これをもって京都府も動いていただき、現在雑水川の事業が、途中で止まっていた部分もあったが、動き出したところもある。亀岡市も雨水計画という絵は持っているが、事業化にはまだ踏み出せていない。全庁横断的な組織を作って対応していかなければならないということにはなっているが、雨水計画を実施するには少し時間がかかる。実際、西川右岸や年谷川左岸という部分では動いていたが、完璧には終わっていない。今度、大井町の沿川地域では犬飼川左岸が動き出すと思うが、ほかの地域については、絵はあるが動きが取れていない状況である。

<菱田委員>

市街地であるので、対策をしっかりとっていただくように、早急に検討を進めていただくように要望する。

<藤本委員>

春日橋の拡幅工事を行おうとすれば、迂回路を作った上で工事しなければならないとのことである。京都市内で国道9号に地下道ができたが、国道9号には鉄板というか、大きいブロックのようなものを敷いておいて、そこはそこで通らせておいて、下の工事をどんどん進めていった。そういう工法で、クニッテル通りは通れるようにしたまま、下の拡幅工事を進めることはできないのか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

そのようにしようとすれば、現道よりも仮設の道をかなり上げなければならなくなる。交差点がかなり接近しており、そこへの影響も出てくる。費用対効果の関係で府は迂回路としていっていると考える。また、いくらでも掘る場所を確保できればよいのだが、占有者もかなりたくさんおられ、占有物件をのけるスペースも要るので、それも勘案して迂回路の工法で行うと聞いている。

<馬場委員>

南郷池は治水の役割を果たしている。もっと規模を広げて土砂を撤去していただくよう強く要望されたい。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

撤去することによって治水安全度が向上する。引き続き要望していきたい。

<馬場委員>

先日、議員団研修で、柏原平和池水害伝承の会の講演を受けた。その中で、地元の方々がいまだに危惧されているのは、決壊した逆側、年谷川の左岸側の堤防が脆弱なまま放置されているのではないかということである。これについて京都府は一切調査したことがないということもある。ぜひここも同じように強力に調査して、堤体の強化を図ってほしいと考えるがどうか。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

具体的な場所が分からない。

<木曾副委員長>

まだ改修できていない場所が、国道9号から府道までの部分なのか、国道9号から上流なのかを含めて確認されたい。おそらく府道から下流は両方行っていると思う。そこから上流の部分について確認されたい。

<桂川・道路整備課広域事業担当課長>

そのようにする。

<木曾副委員長>

概ね今日の説明についての質疑が終わったが、いずれにしても要望が多い部分であった。基本的に治水安全度を上げていくためには、本川・支川関係なしに、堆積土砂の撤去が必要なのは明らかである。予算要望や民間事業者の参入も含め、命と暮

らし、安全をきちんと守っていく対策をとっていかねばならない。これは期成同盟や当特別委員会、亀岡市が連携して府へ要望し、また府からも国へ要望いただくことで進めていかねばならない。本日は当特別委員会の委員長が欠席であるが、要望等はいろいろと連携していかねばならないという思いを持っておられると聞いている。期成同盟と連携しながらどのように取り組んでいくかを含めて、これから理事者側とも協議していきたいと考えている。

それでは、この後現地視察を行う。２時３０分に正面玄関に集合願う。なお、大井町、河原林町、千代川町の自治会長が現地に来ていただけるとのことである。

～ 14 : 15